

SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラムユーザーインタビュー

■A I パネル⑭

林 (34) / システム開発

- 属性：神奈川県横浜市西区。プロジェクトマネージャー。一人暮らし。
- 美容タイプ：美容高感度層
- 購入チャネル：公式 EC サイト
- 購入の動機：画面越しに見る自分の顔の「たるみ」に衝撃を受けた。リニューアル後の引き締め効果と、ガジェットのような黒ボトルの質感に惹かれた。
- 現状：使用感の良さはもちろん、黒ボトルのデザインが愛用の PC と並べても違和感がないのが最高。機能美を愛する自分のスタイルにフィットしている

<結果サマリー>

100年の研究と最新成分を評価、黒ボトルのガジェット感からも、肌の緩みを引き締める「高性能デバイス」として投資

- 1. 美容についてのこだわり** 横浜でシステム開発のプロジェクトマネージャーを務める対象者は、美容においても「機能性」と「納得感」を最優先する。彼にとってスキンケアは単なる身だしなみではなく、愛用する PC やガジェット類と同様に、「自分の生活の世界観を構成する一部」である。日々の生活の中で「世界観が崩れないこと」を重視し、機能が形に現れているものに強く惹かれる独特の美意識を持っている。
- 2. 普段のスキンケアと目指す肌** 朝夜のルーティンには SHISEIDO MEN を中心に、IPSA やデコルテ、SK-II を組み合わせる高感度な層である。彼が切望するのは「ノイズのない肌」であり、特に Web 会議で直面した自らの顔の「緩み」が大きな課題となっていた。単なる保湿ではなく、「引き締まった印象」を維持することで、ビジネスの場において「自信を持てる肌」でいることが、彼にとってのスキンケアの最終目的となっている。
- 3. 現使用美容液購入経緯** 購入の決定打は、リニューアルされたアルティミューンの「漆黒のボトル」という視覚的・触覚的情報であった。広告で見た反町隆史氏の言葉以上に、そのボトルが「愛用の MacBook の隣に並んで違和感がない」という機能美に衝撃を受けている。彼にとってこの高額な投資は、単なる化粧品の購入ではなく、戦場である仕事に向かうための「装備を整える」という心理的儀式に近い意味を持っている。
- 4. 現使用美容液使用実態と評価** 使用時は「下から上へ」の圧を意識し、高級な道具をメンテナンスするように丁寧に肌へ馴染ませている。5段階評価で「4」とする満足度の背景には、翌朝の肌のハリ感という実利に加え、「生活の解像度が上がった」という高揚感がある。一方で、漆黒ゆえに「残量が見えない」ことが、精密な道具としての完璧さを損なう唯一の「ノイズ」として指摘されており、徹底した機能主義的な視点が伺える。
- 5. 現使用美容液 今後の使用意向** 継続意向は「4」と高く、10年後の自分を律するための投資として位置づけている。現状の満足度は高いが、次なる興味は「肌の状態をスキャンする」といった、よりガジェット要素の強いテクノロジーへと向いている。対象者にとって、SHISEIDO MEN はもはやコスメの域を超え、自己のパフォーマンスを最大化させるための「最新デバイス」としての価値を確立していると言える。

1. 美容についてのこだわり

インタビュアー：

本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。今日は林さんの普段の生活や、お使いの美容液について、ざっくばらんにお話を伺えればと思います。よろしく願いいたします。

対象者：よろしく願いします。

インタビュアー：まずは簡単に、ご自身のことについて教えていただけますか。お住まいのエリアや、普段どんなお仕事をされているか、お聞かせください。

対象者：横浜の西区に住んでいます。仕事はIT系のシステム開発で、プロジェクトマネージャーをやっています。立場上、会議も多いですし、今はリモートと出社のハイブリッドという感じですね。家では一人暮らしです。

インタビュアー：プロジェクトマネージャーをされているのですね。お忙しいのですが、ご自身の「美容」については、何かこだわっていることや、気にかけていることはありますか。スキンケアに限らず、何かあれば教えてください。

対象者：そうですね……「清潔感」は大前提として、自分の中では「機能性」と「納得感」を大事にしています。中身が伴っているのはもちろんなんですけど、毎日使うものなので、自分のデスク周りや持ち物と並べた時に、世界観が崩れないものがないなと思っています。PCやガジェット類が好きなので、それらと一緒に置いてあって心地よいか、という視点は強いかもしれません。

2. 普段のスキンケアと目指す肌

インタビュアー：

では、普段のスキンケアについて具体的に教えてください。まず、朝は洗顔のあと、どのようなステップで、何のブランドのアイテムを使っていますか？

対象者：朝は時間がないのでシンプルですね。洗顔の後は、まずSHISEIDO MENの「ハイドレーティングローション C」で水分を入れます。その後に、例の「アルティミューン パワライジング セラム」を塗って終わりです。以前は乳液も使っていましたが、今はこれ一本で十分潤う感じがするので。

インタビュアー：朝はローションとアルティミューンなんですね。夜はどうでしょう。

対象者：夜はもう少し工程が増えます。クレンジングはIPSAのオイルを使ってしっかり落として、洗顔はSHISEIDO MEN。その後に導入液としてコスメデコルテの「リポソーム」を挟むこともあります。その後は朝と同じローションと、アルティミューンを。あ、あと乾燥が気になる時は、最後にキールズの「ウルトラフェイシャルクリーム」を薄く塗って蓋をします。

インタビュアー：夜はIPSAやデコルテ、キールズも組み合わせていらっしゃるんですね。毎日ではないけれど、時々行うような特別なケアは何かありますか？

対象者：週に1、2回、SK-IIのフェイシャルトリートメントマスクを使います。これは勝負所の前日とか、肌が疲れているなど感じる時に。あとは月に一度、横浜市内の美容皮膚科でハイドラフェイシャルを受けて、毛穴の掃除をしてもらっています。

インタビュアー：ご自身でのパックや、クリニックでのケアも取り入れていると。そういった日々の積み重ねを通して、最終的にどのような肌を目指しているのでしょうか。

対象者：一言で言えば「ノイズのない肌」です。ザラつきや毛穴が目立ちがないのは当然として、一番は「引

き締まった印象」を維持したい。仕事柄、Web 会議で自分の顔を直視する機会が多いんですが、その時に影がなくて、シュツとして見えるというか。清潔感の先にある、自信を持てる肌でいたいなと思っています。

3. 現使用美容液購入経緯

インタビュアー：

では、今回「SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラム」を購入された経緯について詳しく伺いたいのですが、そもそも、この商品を知ったきっかけは何だったのでしょうか？

対象者：きっかけは、SNS ですね。Instagram か X の広告だったと思うんですが、反町隆史さんが出ていたんです。正直、タレントさんに惹かれるタイプではないんですが、あの CM の「年齢を力に変える」という言葉と、何より映っていたボトルの「黒」の質感がすごく目について。ちょうどその時期、Web 会議の画面に映る自分の顔に、以前にはなかった「たるみ」というか、全体的な緩みを感じてショックを受けていたタイミングだったんですよね。

インタビュアー：画面越しの自分の顔に衝撃を受けたタイミングで、あの黒いボトルが目にとまりました。初めて知った時の印象や、そこから購入に至るまで、他に何か情報を調べたり、迷ったりしたことはありましたか？

対象者：第一印象は「あ、これなら自分のデスクに置けるな」でした。検討段階では、YouTube で成分解説をしている動画をいくつか見ましたね。前のモデルと何が変わったのかとか。比較対象としては、以前使っていた「クラランス メン」の美容液や、あとは「アスタリフト メン」あたりと少し迷いました。ただ、今回は「リニューアルで引き締め効果が上がった」という情報と、あとはやっぱり、あのガジェットのような機能美的なデザインに抗えなかったです（笑）。

インタビュアー：以前はクラランス メンなども使われていたんですね。それでも今回、アルティミューンに「スイッチ」しようと思った、一番の決め手は何だったのでしょうか。

対象者：直前まで使っていたものも悪くはなかったんですが、少し「おじさんっぽさ」というか、デザインが古く感じてきていて。資生堂の今回の黒ボトルは、僕が愛用している MacBook や Logicool のキーボードと並べても、全く違和感がないどころか、むしろ一つのツールとして完成されている感じがしたんです。もちろん、資生堂というブランドへの信頼感もありますが、最終的には「この道具を使っている自分」がしっくりくるかどうか、という感覚的な部分が大きかったかもしれません。

インタビュアー：ご自身の持ち物との調和や、道具としての完成度が最後の決め手になったんですね。ちょっとお伺いしたいのですが、先ほど、「デスクに置けるな」とおっしゃっていましたが、スキンケアアイテムはお仕事に使うデスクに置いていらっしゃるのですか？スキンケアもそこでされているのでしょうか？

対象者：あ、いえ、基本的には洗面所に置いています。ただ、僕の場合は「仕事のスイッチを入れる場所」がデスクなので、そこにあるガジェット類……例えば、マットブラックのモニターアームとか、アルミ削り出しのキーボードとか、そういった「機能が形になっているもの」との相性を無意識に測ってしまうんです。

インタビュアー：なるほど。実際に使う場所は洗面所だけれども、選ぶ基準は「デスクの上のツール」と同等にある、ということでしょうか。

対象者：そうです。朝、洗顔してこれを手にとるとき、単に「肌の手入れをする」というより、これから戦場（仕事）に向かうための「装備を整える」感覚に近いんですよ。だから、洗面所に置いてあっても、頭の中ではデスクの上の MacBook の隣に並んでいるイメージなんです。そこで違和感がないことが、僕にとっては「自分を律する道具」として成立するための条件というか。

インタビュアー：装備を整える、自分を律する道具……。具体的に、あの黒いボトルのどのあたりが、そう

いった「道具感」を強く抱かせるのでしょうか。

対象者：まずはあの、深みのある黒の質感ですね。安っぽいプラスチックの黒じゃなくて、光を吸い込むような重厚な感じ。それから、無駄のないフォルムです。アルティミューン特有の曲線はありますが、この色になったことで、色気よりも「精密機器」みたいなストイックさが勝っている。これがもし、以前のような赤いボトルだったら、僕の「装備」には選ばなかったと思います。赤はどこか「装飾的」というか、僕の日常のトーンからは浮いてしまうので。

インタビュアー：なるほど。

4. 現使用美容液使用実態と評価

インタビュアー：それでは、実際にアルティミューンをどのように使われているか詳しく伺いたいのですが、日々のケアの中で意識している「付け方」などはありますか？

対象者：使い方は自分なりにこだわっています。まず、手のひらで少し温めてから、顔全体に広げるんですけど、その時に「下から上へ」引き上げるような動きを意識しています。特に、Web会議で気になったフェイラインから頬にかけてですね。指先というよりは、手のひら全体を使って、グッと圧をかけるような感じで馴染ませています。

インタビュアー：下から上へ、手のひら全体で圧をかける。なぜ、そのやり方を意識されているのでしょうか？

対象者：やっぱり「引き締めたい」という目的が一番ですから。重力に抗うというか、物理的にも「上がれ」と念じながら塗っているところはありますね（笑）。あと、この美容液は質感がいいので、雑に塗るのがもったいない気がするんです。高級な道具を丁寧にメンテナンスするのと同じ感覚で、自分の肌も丁寧に扱いたいなど。

インタビュアー：なるほど。ご自身のメンテナンスとして丁寧に扱われているんですね。では、現在のこの商品に対する「満足度」を、5段階で評価するとしたらいくつになりますか？

対象者：うーん……「4」ですね。

インタビュアー：評価は「4」なのですね。その理由、特に満足している点と、逆に「あと一歩」という物足りない点があれば教えてください。

対象者：満足しているのは、やはり「期待通りの肌実感」と「デザイン」です。使った翌朝の肌のハリ感が明らかに違いますし、鏡を見た時の自分が少しシャキッとして見える。それと、あの黒いボトルが洗面所にあるだけで、自分の生活の解像度が上がったような満足感があります。

インタビュアー：生活の解像度が上がるような満足感。では、物足りない点というのは？

対象者：強いて言えば、価格と残量の見えにくさでしょうか。1万5千円超えというのは、消耗品としてはなかなかの投資です。それなのに、ボトルが漆黒で中身が見えないので、いつなくなるか戦々恐々としている部分はあります。リフィルがあるのは助かりますが、もう少し「あとどのくらい使えるか」が機能的にわかると、ツールとして完璧かなと思います。

インタビュアー：そういった点も含めて、林さんにとって、このアルティミューンの「最大の魅力」は何だと思われますか。

対象者：一言で言うと「自分をアップグレードしてくれる感覚」ですかね。単なるスキンケアの枠を超えて、仕事に臨むマインドを整えてくれる。高価ではあるけれど、それに見合う「機能」と「佇まい」を兼ね備えているところが、他の美容液にはない魅力だと思います。

5. 現使用美容液 今後の使用意向

インタビュアー：今のお話を踏まえて、このアルティミューンを今後も使い続けたいかどうか、5段階で教えていただけますか。

対象者：……そうですね、これも「4」です。

インタビュアー：その理由を教えてください。

対象者：今の自分にとって、これ以上の「納得感」があるものが見当たらないからです。使い続けることで、今の肌のハリというか、シュツとした感じを10年後もキープしていきたい。このボトルを手取るたびに、自分を律して、仕事のパフォーマンスも上げていけるような気がしています。

インタビュアー：使い続けることで、10年後の自分や仕事への姿勢を維持したいと。今、他に興味を持っている美容液などはありますか？

対象者：うーん……今はこれに満足しているので、具体的に「これ」というのはないです。ただ、強いて言えば、もっと「テクノロジー感」に特化したものが出れば気になるかもしれません。例えば、その日の肌の状態をスキャンして成分を配合してくれるとか、そういうガジェット要素が強いものがあれば。

インタビュアー：ガジェット要素、ですか。

対象者：はい。美容液も、僕にとっては「最新のデバイス」を導入する感覚に近いので。

インタビュアー：最後に、このアルティミューンに対して、何か要望があればどんなことでもお聞かせください。

対象者：……やっぱり、さっきも言いましたけど「残量の可視化」ですね。この漆黒の美しさを損なわずに、重さで検知するとか、側面に一本細いスリットを入れて光を当てれば見えるようにするとか。中身がいつ切れるかわからない不安だけは、この完璧な「道具」において唯一のノイズなんです。資生堂さんの技術なら、スマートに解決できるんじゃないかなと期待しています。